

第 9 回 東海村地域公共交通会議 議事メモ(公表用)

【日 時】 平成 27 年 8 月 5 日(水) 15 時～

【場 所】 東海村役場 原子力視察研修室

【出席者】 (委 員) 出席 18 名／欠席 5 名

1. 開会(まちづくり推進課)

2. あいさつ

(設楽副村長)

- ・みなさんこんにちは。東海村副村長の設楽でございます。
- ・本日は大変お忙しい中、第 9 回の地域公共交通会議にお集まりいただきありがとうございます。また、任期満了に伴う委員就任依頼に対しまして、快くお引き受けいただき感謝申し上げます。
- ・さて、本村の公共交通につきましては、村が主体的に運行しているデマンドタクシーに加え、本年4月からは、茨城交通による路線バスの実証実験として 4 路線の運行が開始され、その充実が図られるとともに、現在は利用促進に関する取組みに力を入れているところでございます。路線バスの利用状況につきましては、後ほど担当より説明させますが、引き続き当初の見込みより少々厳しい数字が出ております。特に笠松循環線及びおさかなセンター線につきましては、様々な機会を捉えてのPR活動や沿線住民に対して初乗りクーポン付のチラシ配付など、積極的に利用促進活動を展開しておりますが、なかなか利用実績に結びついていない状況にあります。
- ・そのような状況の中、本日は、前回の会議でご了承をいただきました平成 28 年 3 月までの実証実験期間の延長に基づきまして、10 月以降の実証実験のあり方に関してご審議いただく予定であります。
- ・引き続き委員の皆様から忌憚のないご意見を賜り、よりよい取組みとして進めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、開催にあたり私からのあいさつとさせていただきます。

3. 委員委嘱

(まちづくり推進課)

- ・ありがとうございました。続いて委員委嘱に移らせていただきます。
- ・この度、任期満了に伴う就任依頼に対しまして、快くお引き受けいただき誠にありがとうございました。平成 29 年 6 月 30 日までの 2 年間を委嘱させていただきましたので、どうぞよろしくお願いいたします。なお、委嘱状につきましては机上配付とさせていただきますので、ご確認ください。
- ・それでは、新たに参画いただきました委員の方々方が 5 名いらっしゃいますので、名簿順に従いましてお一人ずつ自己紹介をいただきたいと思います。任田委員から時計回りでお願いいたします。

<着席順にて自己紹介>

(まちづくり推進課)

- ・ありがとうございました。続きまして、事務局を紹介いたします。

〈事務局紹介〉

- ・また、隣接自治体として日立市、ひたちなか市、那珂市の担当部署からもオブザーバーとして会議に出席していただきます。本日は日立市の担当部署から出席をいただいております。よろしくお願いいたします。
- ・なお、本日は過半数を超える 18 名の委員の出席をいただいておりますので、本会議は成立しておりますことを報告させていただきます。

4. 会長・副会長の選出

（まちづくり推進課）

- ・引き続きまして、会長・副会長の選出に移らせていただきます。要綱第 4 条第 1 項の規定により、本会議には会長 1 名、副会長 2 名を置くとしており、同条第 2 項及び第 3 項の規定に基づき、会長は副村長をもって充て、副会長は委員の互選により定めることとなっております。ここで皆様におはかりいたします。副会長の選出につきましては、いかがいたしましょうか。

〈事務局一任の声〉

（まちづくり推進課）

- ・それでは、事務局案を発表させていただきます。これまで本会議の運営にご尽力いただきました、河野委員、岸委員を引き続き副会長に推薦させていただきたいと思います。

〈異議なしの声〉

（まちづくり推進課）

- ・ありがとうございます。それでは、会長を設楽副村長、副会長を河野委員、岸委員にお願いしたいと思います。副会長につきましては、それぞれの席まで移動をお願いいたします。
- ・それでは設楽会長から改めて一言ご挨拶をお願いいたします。

（設楽会長）

- ・只今要綱の規定に基づき会長に就任いたしました設楽でございます。副会長に就任していただきました河野委員と岸委員におかれましては、引き続き、本会議の運営にお力添えいただければ幸いです。また委員の皆様におかれましても、これまで同様、本村の地域公共交通政策について忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。
- ・本来であれば要綱第 6 条の規定により私が議長として会議を進行するところではございますが、要綱第 9 条の規定に、会議の運営に関し必要な事項は会議に諮って定めるとありますので、皆様にお諮りした上で、ご承認をいただければ、引続き会議の運営を、副会長のお二人に委任したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

〈異議なしの声〉

（設楽会長）

- ・ありがとうございます。それでは副会長のお二人に今後の会議運営を委任させていただきます。

(まちづくり推進課)

- ・ それでは、ここで副会長のお二人から一言ずつご挨拶をいただきたいと思います。まず河野副会長お願いいたします。

(河野副会長)

- ・ ただいまご紹介いただきました東海村民生委員児童委員協議会の会長を務めている河野です。引き続き本会議の副会長ということで議事進行を務めさせていただきます。よろしくお願いします。
- ・ 私たちは東海村の福祉行政、特に高齢者の問題に関して取り組んでおりますが、日本全国高い高齢化率の中、近い将来、買物難民になってしまうのではないかと危惧している団地にお住まいの方々からバスを走らせて欲しいとのご意見が出されているところであります。これからどのように公共交通を整備していくのかを決めるのがこの会議だと思っているので、皆様方から忌憚のないご意見をいただきながら進めていきたいのでよろしくお願いします。

(まちづくり推進課)

- ・ ありがとうございます。続いて岸副会長お願いいたします。

(岸副会長)

- ・ 引き続き副会長を務めさせていただきます岸でございます。この公共交通会議については、以前のデマンド交通運行委員会から引き続き関わっております。デマンド交通に関しては、高齢者を中心とした交通弱者の足としてすっかり定着しておりますが、今後は路線バスに関しても、皆様方と問題点を共有しながら、地域の足となるようがんばって行きたいと思っております。「路線バスが運行してよかった」という声も聞いているので、地域の声を聞きながら進めていければと考えております。よろしくお願いします。

(まちづくり推進課)

- ・ ありがとうございました。それでは、以降の議事進行につきましては、河野副会長、岸副会長にお願いしたいと思います。

4. 協議事項

(1)公共交通の利用状況について

(副会長)

- ・ それでは、(1)公共交通の利用状況について、事務局から資料の説明をお願いいたします。

(まちづくり推進課)

- ・ 下記資料に基づき概要説明
(資料1)公共交通の利用状況

(副会長)

- ・ ありがとうございました。それではただいまの説明に対して質疑はございますか。

(会長)

- ・ 路線バスの実績について、5月の利用が落ち込んでいるが、分析して傾向などをつかんでいるのか。ゴールデンウィークなど外出するにはいい時期であるように思うが。

(任田委員)

- ・ゴールデンウィークでのお出かけなどプラスの要因は確かにあるが、通勤・通学での利用頻度が落ち込む時期であり、東海村の路線に限らず利用が落ち込む傾向にある。特異な現象としてはとらえていない。

(副会長)

- ・特になければ、地域公共交通の利用状況については、これで終了といたします。

(2)路線バスの実証実験について

(副会長)

- ・それでは、続きまして(2)路線バスの実証実験について事務局から説明をお願いします。

(まちづくり推進課)

- ・下記資料に基づき概要説明
(資料 2) 路線バスの実証実験について
(資料 2-1)運行ルート(案)
①運行ルート再編案／②廃止ルート
(資料 2-2)運行ダイヤ(案)
(資料 2-3)普通旅客運賃表(案)

(副会長)

- ・ありがとうございました。
- ・続いて、交通事業者の立場から茨城交通の任田委員からもご発言をいただきます。特に廃止ルート、新規ルートのねらいについてお話いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

(任田委員)

- ・まず廃止するおさかなセンター線、笠松循環線については、乗車実績が大変厳しい。住民のことを考えれば廃止は大変心苦しいが、限られたバスの本数で効率的に運行するためには、東側にシフトした方がいいと判断した。
- ・茨城東病院線、海浜公園西口線については引き続き運行する。
- ・今まで東海駅東口からフローレスタ須和間まで運行させていた路線を循環させることで、朝は駅に行きやすい、夕方は駅から戻りやすい回り方にして運行させる。
- ・さらに赤い線で表現した路線については、沿線に住宅が張り付いていることから、この地区の方々が東海駅、茨城東病院、海浜公園まで行く需要を取り込めるのではと考えて設定している。
- ・現在東海駅からフローレスタ須和間まで310円であるが、循環線にすることで運賃を安くすることができる。運賃、本数とも利便性が増すことになるので乗客が増える可能性があると考えている。
- ・運賃を上げざるを得ない場所があり、東海駅東口から押延までは現在170円の運賃であるが、200円と設定した。これは、路線全体の整合性を図ったからであるが、押延のバス停で乗降していた方は実績としてほとんどいない。不利益をこうむる方はいないとの判断で値上げをした。

（副会長）

- ・ありがとうございました。
- ・私も資料を見て廃止もやむを得ないのかなと思っている。運行後視察で全ての路線を乗車したが、その際にもおさかなセンター線については乗客がいなかった。路線を検討した際には、アンケート結果での要望を受けておさかなセンターまで結ぶとしたが、結果的に利用が少なかった。
- ・逆に地区からの要望が強かったフローレスタ、南台、緑ヶ丘の路線ができることは歓迎できると思う。
- ・ただいまの説明に対して質疑はございますか。

（委員）

- ・総合福祉センターがルートに加わるということで、センターの利用者も高齢者が多く、今後は利便性が高まると思うので、周知を進めていきたいと考えている。

（まちづくり推進課）

- ・本日承認を頂いた後、路線申請となることからタイミングを見てPRに力を入れていく。特に団地内の住民や絆、病院の利用者に対して働きかけていくのでご協力をお願いしたい。

（委員）

- ・アンケートでは、おさかなセンターが上位であったそうだが、このルートではなく、例えば白方経由などの検討もなされたのか。この路線を見ると常磐線から東側、原研道路から南側が充実することになり、西側の交通弱者への対策がどうなのかと思えた。

（任田委員）

- ・アンケートで需要があった場所を廃止することは心苦しいが、実態として海浜公園方面の需要の方が大きかった。現行の三往復では行きはいいのだが帰りの路線がないという状況であるため、そちらを優先して振り替えたということである。限られた本数をどこに振り分けるかという判断の中で、より需要のはっきり見えている路線に振り向けた。

（まちづくり推進課）

- ・半年間の実証実験延長の中で、この後茨城大学の山田先生から説明があると思うが、乗車している方へのアンケートや各地区住民へのアンケート調査については、今の路線も含めて実施したいと考えている。廃止に伴う声や新路線に関する声などを聞きながら実証実験を最後まで行っていきたいと考えているのでご理解いただきたい。

（委員）

- ・今回の路線変更で利便性が高まる地区もあるが、そのほかの四分の三についてはどうなのかと思う。おさかなセンターへの需要があるのであれば、ルートを変更して実証実験を行ってみてもいいのではないかと思った。

（委員）

- ・東海村だけで考えるとバスの便数にも限りがあり、難しい面がある。バス路線が整備されるときには商工会でもお買物バスを出すのかという意見があったが、実際問題として村だけで行うとなると難しい点があるので、近隣自治体と協力して考えたほうがいいのではないかと思う。
- ・私も走っているバスを見たことはあるが乗ったことはない。この委員の中で実際に乗った人は何人いる

のだろうか。我々がバスに乗ってバス停やルートについて話し合った方がいいと思う。こういった問題は地域に住んでいる人の方が詳しいのではないか。

（副会長）

- ・実際に乗ってみたが、おさかなセンターに行く便については誰も乗っていなかった。しかし、おさかなセンターからカインズホームまで乗っている人がいた。聞いてみると買物に便利だと言っていた。実際に乗って聞いてみないとわからないこともある。みんなで乗って声を聞くことは大切であると思う。

（まちづくり推進課）

- ・採算性を考え、限られた予算の中でできることを実証実験してみるという考え方の中で、今後はアンケート調査などからのご意見を基に本格運行に向けて検討していきたい。
- ・それぞれの立場でこの会議に参加してもらっているので、できれば、それぞれの団体などの皆さんの力を借りて、テスト乗車なども設定したいと考えている。

（委員）

- ・高齢者の立場から考えると、東海村はデマンドタクシーを先行して整備しており、高齢者の移動に関しては配慮いただいている。今後ともデマンドタクシーは継続して欲しい。
- ・先日たまたま石神外宿に行ったら、この地区はまったく無視されているとの訴えがあった。高齢になって免許を返納して移動に困るというのは村内どの地区も同じである。ある地区はバスがあり、ある地区にはまったくバスがないというのもどうなのか。その際にはデマンドタクシーを利用して移動することになるが、せっかく二つの手段があるのだから、乗継などまい仕組みを考えて、不公平感がないように考えて欲しい。乗客がいなくてビジネスが成り立たないというのはわかるが、極力平等に福祉に預かれるようにご配慮いただきたい。

（副会長）

- ・その点については、今後も検討すべき内容と考えている。

（任田委員）

- ・先ほどの運賃表の説明で、東海駅東口から押延まで170円と説明したが、実際は190円である。訂正する。

（副会長）

- ・ある程度需要が見込めなければバスを走らせてくれというのは難しい話である。デマンドタクシーは全村をカバーしているので、丁寧に説明していく必要がある。

（委員）

- ・現在大きなバスを走らせているが、ひたちなか市のような小型なバスというわけにはいかないのか。

（任田委員）

- ・ひたちなか市の場合はコミュニティーバスの運行なので、車両の購入も含めて費用をもらっている。東海村の路線のために小型バスを新たに購入して整備しようとするとう運行コストがはねあがってしまう。減価償却などの関係からコストが安く高齢者でも乗りやすいノンステップバスを導入していることから、結果的に大きなバスを走らせている。一番重視していることはコスト面である。

(委員)

- ・東海駅からフローレスタをまわって海浜公園に行くルートについて、最終便がかなり遅い時間に設定されているが、意図は何か。

(任田委員)

- ・この時間帯については、海浜公園の利用者というよりはショッピングセンター利用をねらっているものである。映画館などもあり高校生の利用も想定している。

(副会長)

- ・それでは、10月以降の路線バスの実証実験について、“運行ルート”、“廃止ルート”、“ダイヤ”、“運賃”は了承ということによろしいでしょうか。

〈異議なしの声〉

- ・路線バスの実証実験につきましては、了承いたします。

(3)その他

(副会長)

- ・それでは、その他に移ります。皆様方から何かあればお願いします。

(茨城大学 山田教授)

- ・当日配付した「調査目的の確認について(変更後)」に基づき説明
- ・アンケート調査などの実施について内容やスケジュールを変更したのでご紹介する。
- ・当初はデマンドタクシーから路線バスへの移行も想定していたが、あまり数字が動いていないことや10月に路線を見直すことなどから、組み替えた。
- ・調査は、路線バス、デマンドタクシーに乗り込んでの聞き込み、一般住民向けのアンケートで構成する。
- ・路線バスの運行によってどのくらい住民が便益を受けているのかを定量的に調査する。これは路線バスへの乗り込み調査、住民アンケートを通して評価をする。
- ・現在の路線、10月以降の路線についてそのサービス内容や改善点などについて聞き取る。これは路線バス、デマンドタクシーへの乗り込み調査、住民アンケートを通して調べる。
- ・昨年度実施したアンケートを補完する意味でも、実態として日常生活でどのような移動をしているのかをアンケート調査を中心に明らかにする。
- ・路線バスの乗り込みについては、9月までで運行が終了する路線は9月中旬ごろに、10月以降の路線については、周知が一段落した時点で調査を実施する。
- ・デマンドタクシーの乗り込みについても10月以降の路線周知が一段落する10月下旬から11月上旬にかけて実施する予定である。

(副会長)

- ・特になければ、以上で本日の協議事項を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しいたします。

6. 閉会(まちづくり推進課)

- ・ありがとうございました。充分なご審議をいただき、10 月以降の路線について了承をいただきました。
- ・次回は9月下旬に開催し、10 月以降の路線バスの実証実験やその後のスケジュール等を中心にご審議をいただく予定であります。改めて通知いたしますので、よろしくお願いいたします。
- ・本日はありがとうございました。